

【議案 1】

ESD-J 2016 年度 事業報告

<2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日>

I. 概要

本年度当初、ESD-J は、新役員体制で、「ESD の 10 年」の成果を基に、マルチステークホルダー（MSH）型の市民組織」としての特性を活かし、ESD をけん引してきた多様な分野の NGO や先進的組織はいうに及ばず、持続可能な社会を目指している地方自治体や政府等の行政機関、企業、学校、国際機関などが縦横につながり、オールジャパンで ESD が推進されていく姿を目指して下記の計画でスタートした。

1. ESD 活動支援センター事業
2. 基盤整備、強化
3. 会員の声・地域のを ESD 活動支援センターの機能構築に反映させる事業
4. 国際事業
5. その他事業

しかしながら、事務局体制の刷新・活動支援センターの運營業務管理等に予想以上の労力がかかり、1～5 すべての事業運営の成果は期待の通りに進めることは困難であった。

会員管理業務や、会員サービスの見直しに始まる事務局体制の刷新等は、長年の課題でもあり、今後の ESD 推進の新たなステップのためにも、本年度の此の刷新の機会が必要であったと建設的に取り組んだこと、また、前例のない官民協働で運営される ESD 活動支援センター立ち上げに係る課題解決（情報共有に始まる、調整等のあらゆる取り組みの一つ一つ）の経験はセンター担当理事及びスタッフにとって試練でもあったが、何物にも代えがたい学びも多く、今後の事業運営の成果につながると期待ができる。

ESD-J が、2014 年に国連 ESD の 10 年以降の更なる ESD 継続の重要性を確認し、ESD 推進のため “地域と市民社会からの提言として、4 つのカテゴリー（地域全体で ESD を進める・教育改革を進める・ユースの参画を進める・ESD 推進の仕組みをつくる）を基に「13 の提言」にまとめ国内外に発信してきたことは、2015 年以降の ESD 推進の方向性の提示として高く評価され、さまざまな場面で具体的な ESD 推進の要となっている。

中でも特記すべきは、2016 年 5 月に環境省・文部科学省共同のもと、設立された「ESD 活動支援センター」の運営の責任を請け負って行くことになった事。これは、提言 13 にある、国レベルのマルチステークホルダーによる「ESD ナショナルセンター」の形成提案に端を発し、ポスト ESD として GAP を推進するための国内実施計画の一環として具現化したものである。

ESD-J がこれまで培ってきた、団体としての実績を基に、ESD 活動支援センター事業運営に貢献し、2017 年度に立ちあがる全国 8 つの地方センター設立準備に全国各地の会員が協力を惜しまず、支援の情報を寄せていることは、活動推進の拠り所として大いに活用が期待される。

II 事業活動

1. ESD 活動支援センター事業

【議案 1】

【目標】

ESD 活動支援センターの受託により、ESD の潜在的な担い手である地方自治体や政府等の行政機関、企業、学校、国際機関、さらには ESD 無関心層などを掘り起こしつなぐことに寄与し、様々なセクター同士の連携や協働が進んで、全国に「新しい ESD の風」が巻き起こる足がかりとする。

【センターの 2019 年までの目標】

「ESD 活動支援センター」および「ESD 推進ネットワーク」が、地域の実践者の声を反映した政策形成、および官民協働による ESD 支援のためのプラットフォームとして機能することを目指す。

年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
基本的考え方	ネットワークの準備	全国センター立ち上げ	地方センター立ち上げ	地域ESD拠点推進	ネットワーク本格稼働
ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ● ネットワークの概念整理(文書) ESD推進ネットワークの構築に向けて 	<ul style="list-style-type: none"> ● 支援ネットワークの中期目標合意 ● 支援ネットワークの立ち上げ方針策定 2. ESD活動支援企画運営委員会の設置・開催(文書) ESD推進ネットワークの構築に向けて解説資料(文書) ESD推進ネットワークの目標等(文書) 地域ESD活動推進拠点の登録について(案) 	<ul style="list-style-type: none"> ● ネットワークの稼働開始 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域ESD拠点の整備推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● ネットワークのチューニング
全国センター	<ul style="list-style-type: none"> ● 全国センター立ち上げ準備 	<ul style="list-style-type: none"> ● 全国センター立ち上げ ● 情報インフラの確立 1. ESD活動に関する相談・支援窓口 3. 地方センター設置準備のための意見交換会の開催 4(1) ESD活動支援に係るパンフレットの作成 4(2) ESD活動支援センター公式webサイトの運用等 4(3) 若者世代による情報発信 5(1) ESD活動支援センターオープニング・イベントの開催 5(2) ESD推進ネットワーク全国フォーラムの開催 5(3) 地域ESD活動拠点の形成支援 6. ESDネットワーク形成に係る可視化ツール等の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ● 全国センター機能の充実 □ 地方センター立ち上げに向けた連絡調整 □ ESD関係全国組織との連携強化 □ パンフレット改訂 □ ウェブサイト充実、SNS活用促進 □ ユースESDレポーター継続 □ その他 	<ul style="list-style-type: none"> ● 全国センター機能の一層の充実 □ 地方センター支援、地方センターとの連携強化 □ ESD関係全国組織との連携・協働、地方へのメッセージ □ 地域ESD拠点整備の支援 □ ウェブサイト充実 □ 人材育成、若者戦略等の検討・推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● ネットワークの稼働状況の確認と改善 □ 地方センターと連携してのネットワークのパフォーマンス評価、改善検討 □ 地方センターとの連携強化 □ 地域ESD拠点整備の支援
地方センター		<ul style="list-style-type: none"> ● 地方センター立ち上げ 準備 <環境省地方環境事務所> □ 地方センター設立準備委員会 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地方センター立ち上げ □ 全国センターとの諸々の調整(連絡会を含む) □ 地域ESD拠点の登録に向けた準備と登録開始 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地方センターの機能強化 □ 全国センターとの連携強化に向けた調整(継続) □ 地域ESD拠点の登録、活動推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● ネットワークの稼働状況の確認と改善 □ 地域ESD拠点の登録、活動推進 □ 全国センターと連携してのネットワークのパフォーマンス評価、改善検討

【事業内容】

ESD-J が受託し、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センターと共同で実施した ESD 活動支援センターの業務とその活動結果の概要は、別添「持続可能な地域づくりと人づくりを推進する ESD 活動支援センター 活動レポート 2016」に記載するとおりであり、下記の事項により構成される。

- (1) 活動に関する相談・支援窓口
- (2) ESD 活動支援企画運営委員会の設置・開催
- (3) 地方センター設置準備のための意見交換会の開催
- (4) ESD 活動に関する国内外の情報等の収集及び一元的な発信等

【議案 1】

(5) ESD 推進ネットワークの構築

① ESD 活動支援センターオープニング式典開催 (5/26 GEOC)

② ESD 推進ネットワーク全国フォーラム開催 (11/26 オリンピック記念青少年総合センター)

③ 地域 ESD 活動拠点の形成支援

(6) ESD 推進ネットワーク形成に係る可視化ツール等の作成

(7) 年次報告書 (活動レポート 2016) の作成

【成果】

- ・相談窓口: ESD 活動を実践するに当たっての相談や支援の要請を電話及びメール等で受け付け、特定地域に関する事項等については、地方環境パートナーシップオフィスと情報を共有し、連絡調整しつつ、対応を行った。相談件数は 75 件であった。
- ・ESD 活動支援企画運営委員会: 平成 27 年度に環境省が設置した ESD 活動支援企画運営準備委員会の成果文書「ESD 推進ネットワーク構築に向けて」(平成 28 年 3 月、ESD 活動支援企画運営文部科学省、環境省)に示された構想を具体化するために関係者の間で共有理解を図ることを目的とする以下の 2 点の文書、及び ESD 活動支援センターと連携して ESD を推進する役割を担う地域 ESD 活動推進拠点の登録に関する資料について、確定した。
 - 「ESD 推進ネットワーク構築に向けて」解説資料
 - 「ESD 推進ネットワークの目標等について」
- ・地方センター設置に向けた意見交換会: 地方センターの設置に向けて、環境省地方環境事務所および地方環境パートナーシップオフィス (EPO) と連携し、必要な事項について検討・調整することができた。
- ・地方センターの重要なパートナーとして位置づけられる地域 ESD 拠点について登録の要件や手続きの大筋について環境省地方環境事務所および地方環境パートナーシップオフィス (EPO) と詳細な意見交換を行うことができた。
- ・ロゴ、パンフレット等: ESD 活動支援センターロゴの決定にともない、平成 27 年度に制作したパンフレット (A5 仕上がり、二つ折り、両面カラー) を 2,000 部増刷し、環境イベントや ESD 関連の会議等で配布した。
 - ・ウェブサイト: 平成 27 年度に情報設計等を行い立ち上げ準備を行ったが、平成 28 年 4 月 22 日の ESD 活動支援センター開設にあわせてウェブサイトを公開した。ESD 活動支援センターの基本情報である「わたしたちについて」で設立の背景やセンターへのアクセス、パンフレットのダウンロード用データの掲載等を行い「アワード・表彰」、「公式ドキュメント」を紹介するコンテンツ等をスタートさせた。
 - ・ユースレポーター: 社会人ユースが自分の地域における ESD の取り組みに触れ、自らの視点で地域の課題や課題を解決するための ESD の実践事例をヒアリングし、ESD 活動支援センターのウェブサイトで報告する仕組みを構築した。ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2016 において、レポーター 9 名を紹介した。レポーターたちは以下の 2 本のレポートを作成した。
 - ① 全国フォーラムにおいて自ら感じたこと、発見したことに関するレポート
 - ② 地域における ESD の実践事例レポート
- ・ESD 推進ネットワーク全国フォーラム (以下「全国フォーラム」): 平成 28 年 11 月 26 日 (土) に国立オリンピック記念青少年総合センター国際会議室で開催した。初回となる今年度の全国フォーラムは、多分野の多様な組織・団体の代表及び個人が、持続 可

【議案1】

能な社会の構築に向かう全体像を俯瞰するなかで自らの立ち位置を確認し、協働の基盤をつくる機会として企画した。全国各地から、ユネスコスクールを含む教育機関、メディア、企業、公益法人／NGO/NPO、地方自治体、等 185 名の参加者を得た。

・可視化ツール：ESD 推進ネットワークの形成を「可視化」するための参加型ツール（以下「可視化ツール」）を作成することとし、ネットワーク可視化タスクフォースの会議を 3 回開催し、全国レベルのネットワークのための可視化ツールを開発するとともに、「活用ガイド」を作成した。また、全国レベルの協力団体を対象として、試験的に運用した。

・その他：以下のような活動を行った。

- ・研修会等での講演、イベントへの後援名義
- ・ESD 活動支援センターオープニング式典開催
- ・エコライフ・フェア 2016 での ESD ブースの企画・運営
- ・グリーンチャレンジデー2016 での ESD ブースの企画・運営
- ・国際フォーラム：ESD における「変容」「統合」「刷新」ユネスコ／日本 ESD 賞海外受賞者の実践に学ぶ 開催

【評価】

・全国センター発足の一年目である平成 28 年度は、全国フォーラムの開催、ウェブサイト開設、地方センターの設立に向けた基盤整備等を進め、大きな成果を得たと評価できる。

・他方、平成 29 年度には、全国 8 ブロックで地方センターが開設されることから、平成 29 年度の全国センターの最大の課題は、地域における ESD 活動の推進に向けた、地方センターとの緊密な連携・協力体制の構築である。

・センター業務の遂行に関し、当初予定していなかった業務の発生、地方センター設立に向けた様々な調整業務の増大等がおこった。その対処のため、平成 29 年 2 月から人員、体制を強化し、地方センターの設立に際しての様々な全国センター、地方センター間の調整業務を担当できる熟練したスタッフを配置するとともに、4 月より業務分担の見直しを行い増大する業務への対応体制の強化を図った。

2. 基盤整備、強化

【目標】

2015 年度から着手した「ESD の 10 年」後の ESD 推進第 2 ステージにおける社会的ミッションを果たせる組織としての基盤整備をさらに進める。

特に、2016 年度は、ESD 活動支援センター（以下、センター）受託（2016 年から 2019 年の 4 年）の 1 年目としてセンターの機能構築と活動の充実に全力を挙げることをふまえ、その相乗効果が最大限になるべく基盤を整備し、MSH の連携・協働による ESD 支援施策や支援プロジェクトを生み出すための長期的ビジョンに立った基盤強化に着手する。

【事業内容】

- ・事務局運営の整備

【議案 1】

事務作業の効率化、環境整備、各種規定の見直し

・組織運営体制の整備

各種会議の機能整理

- ・「市民社会からの挑戦 - ESD 推進 12 年間の軌跡 ESD-J 活動報告書 (2003~2015)」販売
- ・ ESD-J ウェブサイト等情報発信媒体の有効利用の検討
- ・ 会員メーリングリスト等、会員間ネットワークの促進方法の検討
- ・ 他機関との連携に関する事
- ・ ESD-J 独自プロジェクトの立ち上げ準備に関する事

【成果】

- ・ 事務局運営の整備として以下の項目を実施した。
 - － 事務作業の効率化… PC デスクトップ型、ワイドモニター、各種ソフト購入、新会計システムの導入と作業手順の変更、人事労務関連書類様式の作成、過去の書類・電子ファイル等の整備
 - － 環境整備… 日能研ビル連絡会、NPO 長屋事務局長会議を設置し日能研の協力の下 2 F 共同会議室の新設、給湯器の整備、災害時協力体制構築など、
 - － 人材育成のための方策… 人員配置と分担の見直し、CSO ラーニング生の受け入れを機にした学び合い文化の醸成に着手
 - － 各種規定の見直し
- ・ 組織運営体制の整備として各種会議の機能整理
- ・ 「市民社会からの挑戦 - ESD 推進 12 年間の軌跡 ESD-J 活動報告書 (2003~2015)」会員宛送付と販売 (2016 年度 第 2 版 300 冊印刷、正会員へ 162 冊送付、58 冊販売、2017/3/31 現在の在庫 111 冊 (1 版、2 版の合計))
- ・ WEB 等情報発信媒体の有効利用の検討及び WEB サイトのリニューアル開始
- ・ 会員メーリングリスト等、会員間ネットワークの促進方法の検討の一環としてデータベースの更新を実施した。
- ・ 他機関との連携に関する事… ACCU、日能研ビル内、行政等との連携を図った。
- ・ ESD-J 独自プロジェクトの立ち上げ準備についてはセンター人員配置の見直しと共に進めている。

【評価】

- ・ 全項目に対して着実に実施している。2017 年度も引き続き実施する必要がある。
- ・ 業務に適した人員配置換えおよび新規採用により、ESD-J とセンターと一体的に体制を強化した。
- ・ 財政基盤強化への対策には、今後の検討が必要である。

3. 会員の声・地域の声を ESD 活動支援センターの機能構築に反映させる事業

【目標】

「ESD の 10 年」の活動の中で ESD-J の会員を通じた日本の各地域やさまざまな分野の ESD 推進者の声が集まり、ESD-J が提言としてまとめ政府や議員連盟に届けることにより ESD 活動支援センター (以下、センター) の設置が実現した。

【議案1】

これを継続し、会員を中心とした市民社会の声と日本の各地域からの声をまとめセンター運営や機能に反映させることを通して、新しい官民協働型運営のモデル的公益センターの確立をめざす。

ESD 推進支援グループ（仮称）は、「広範なテーマを包含した政策提言を行うマルチステークホルダー（MSH）型の市民組織」による ESD の推進を支援する立場として、元理事や ESD 推進に携わる各界ステークホルダーからボランティア的に構成される。

- ※ 政策提言へとつながっていくような活動を行う。
- ※ 会員同士の交流や学び合いの促進に寄与する。

【事業内容】

・ ESD 推進支援グループ（仮称）の結成の準備として、2016 年度と 2015 年度の理事から構成されるメーリングリストをつくった。

【成果】【評価】

- ・新設のメーリングリストは、事務連絡等に利用したのみで ESD 推進支援グループ（仮称）としての機能を果たすまでに至らなかった。
- ・運用には担当理事を配置する必要があると考えられる。

4. 国際事業

【目標】

国際的な窓口として、特にアジアにおいて ESD を牽引してきた実績をふまえ、これまでに信頼関係を築いてきた各国の NGO がさらに発展してそれぞれの ESD が充実することを支援するための活動を推進していく。

【事業内容】

- ・平成 28 年度には ESD 活動支援センターが開設されたことから、国際事業は、ESD 活動支援センターによる活動、ESD-J 構成団体の活動が中心となった。
- ・ ESD に関するアジア NGO ネットワーク（ANNE）については、次なる活動にむけて連携団体であるインドの環境教育センター（CEE）と意見交換を行った。
- ・平成28年9月13日（火）にエコツーリズムと自然保護のためのモロッコ協会から2名の来訪者があり、モロッコと日本の環境教育・エコツーリズムに関する情報交換会を開催した。
- ・ ESD 活動支援センターとしては、世界的な ESD 賞である「ユネスコ／日本 ESD 賞」の第 1 回（2015 年）及び第 2 回（2016 年）の海外受賞 4 団体（ドイツ、インドネシア、グアテマラ・エルサルバドル、英国）が来日する機会を捉え、東京でも交流の機会を持つべく、関係者（文部科学省、ユネスコ、岡山市、永田佳之聖心女子大学教授等）の協力を得て、平成 29 年 1 月 24 日（火）に聖心女子大学宮代ホールにて国際フォーラムを開催した。

【議案1】

【成果】

- ・平成28年度にはESD活動支援センターが開設されたことから、国際事業は、ESD活動支援センターによる活動、ESD-J構成団体の活動が中心となった。
- ・ESD活動支援センター主催により国際フォーラムを開催した結果、大学生を含む日本のESD実践者との交流の機会をつくることができた。

【評価】

- ・ESD活動支援センター主催の国際フォーラムについては開催準備日数が少なく周知が十分でなかった。日本のESD実践者にとって海外の実践者と直接交流し情報交換する機会は大変貴重だった。

5. その他事業

1) 環境省主催事業「エコライフ・フェア2016」での「ESD活動支援センター コミュニケーションブース」企画・運営（6月4-5日）

日時： 2016年6月4日（土）～6月5日（日）

場所： 代々木公園（ケヤキ並木・イベント広場）

内容： ESDが目指す「持続可能な開発」のイメージを、休日の屋外イベントにふらりと立ち寄った人たちに伝えるために、国連が定めたSDGs（持続可能な開発目標）を柱にした出展内容とした。また、SDGsを知識として理解していただくだけでなく、コミュニケーションプログラムや、トークなどを交え、アクション（行動）につながる学び、またブーススタッフ間や来場者との学びあいを体験してもらえるような工夫を行った。

協力： 板橋区立成増小学校地域支援本部／株式会社プロジェクトデザイン／公益社団法人ガールスカウト日本連盟／ESD日本ユース・コンファレンス事務局（公益財団法人五井平和財団）／横浜コミュニティデザイン・ラボ／横浜市立永田台小学校（五十音順）

【成果】

- ・参加者数は、SDGsアクション372名、トークプログラム27名、SDGsゲーム32名。
- ・エコライフ・フェアの来場者は親子連れが多く、SDGsは難しいという懸念もあったが、ユーススタッフの熱心な声かけや、具体的な取り組みのアイデアの紹介によって、小さな子どもも楽しみながらアクションを考えるよいプログラムとなった。
- ・参加者には環境への関心の高い若者や中高年の方々もおり、ユーススタッフが参加者から環境問題について教えてもらうなど、プログラムへのボランティア参加を通じてユース自身が学び、成長する機会となったことがうかがえた。

2) 環境省共催事業「グリーンチャレンジデー2016」での「ESD活動支援センターブース」企画・運営（10月1-2日）

日時： 2016年10月1日（土）～2日（日）

場所： 新宿御苑

内容： グリーンチャレンジデーでは、出展者それぞれが生物多様性をテーマに、体験型の

【議案 1】

プログラムの提供や食事・グッズの販売などが行われる。そこで、ESD ブースは会場内のどこでどんな体験ができるか、どんな発見があったかを ESD の切り口から発信する“情報ステーション”の役割を担う企画とした。その発信は、ESD ブースで活動発表を行った子どもメンバー、ユーススタッフをはじめ、その日の来場者の皆さんも作成する、参加型の展示とすることで、誰もが ESD の担い手になることを体験的に伝えることを目指した。

協力： 伊豆市立天城中学校卒業生／公益社団法人ガールスカウト日本連盟／こどもエコクラブ全国事務局（公益財団法人日本環境協会） およびこどもエコクラブの皆さん（イオン市川チアーズクラブ／竹の子エコクラブ／野島自然観察探見隊／MIYASHIRO エコ☆スターズ）／多摩市立青陵中学校自然体験部／ユース有志（五十音順）

【成果】

- ・参加者数は、会場内の ESD 体験レポート 24 枚、ESD のたねさがし 107 枚、ESD ブース出展・運営に参画した子どもは延べ 25 名、ユース延べ 14 名。
- ・ESD 体験レポートや ESD のたねさがしの掲示を通して、一般参加者に他のブースでどんな活動ができるのかを紹介する機能を担うことができた。
- ・ほとんどの出展ブースにユーススタッフや子どもたちが取材に行ったことで、彼らを通して、ESD と ESD ブースについて出展者に伝えてもらうことができた。
- ・出展者説明会では環境省から出展者全員に、ESD の説明、取材への協力、体験型の学びの提供を依頼してもらい、出展者の ESD 理解の促進に効を奏した。

3) 岡山市委託事業 ESD コーディネーター研修の企画・運営(2016年9月～2017年3月)

主催は、岡山地域「持続可能な開発のための教育」推進協議会（略称、岡山 ESD 推進協議会）で、事務局は岡山市市民協働局 ESD 推進課である。本業務は、ESD コーディネーター研修ならびに中国地方担当理事である池田満之（ESD-J 副代表理事）が業務責任者を務めた。

本業務は、「岡山 ESD プロジェクト 2015-2019 基本構想」の重点取組分野に掲げている「人材育成」の一環として、「ESD コーディネーター研修」を企画・実施し、ESD コーディネーターとして必要な考え方やスキルを身につけた人材を育成するもので、実施にあたっては岡山地域の人材を活用することで、研修のノウハウを岡山地域に蓄積できるよう工夫することが求められた。このため、池田満之と主任講師を務めた志賀誠治（人間科学研究所所長、ESD-J 会員）以外は、地元岡山の人材を活用した。受講者は設定人数の 20 名で、所属は行政職員、市民団体、企業等、多種に渡っており、設定条件を満足するものであった。

主な内容は、以下の通り。

- 第 1 回集合研修...11 月 11 日（金）9：30～17：00 会場：ゆうあいセンター（岡山市）
〔内容〕①ESD の基礎知識の整理、②学び合いのグループづくり、③企画概要づくり、④Q&A、次回に向けて 等
- 第 2 回集合研修...11 月 24 日（木）9：30～17：00 会場：ゆうあいセンター（岡山市）
〔内容〕①企画概要の発表、学び合い、②プログラムづくりに必要な知識の整理、③ワンポイントレクチャー、④学習プログラム（企画書）づくり、⑤プログラム（企画書）完成に向けての Q&A 等
- 個別相談会...12 月 15 日（木）10：00～17：00 会場：ゆうあいセンター（岡山市）
〔内容〕企画書についての個別相談（一人当たり 1 時間の割り振りで実施）
- 第 3 回集合研修...1 月 19 日（木）9：30～17：00 会場：ゆうあいセンター（岡山市）
〔内容〕①プログラム（企画書）の発表、学び合い、②企画の練り直し、③全体総括、④終了認定証の授与 等

【議案1】

このほかに、上記の研修で対応しきれなかった部分の個別のフォローを行った。また、各回の内容は、その都度取りまとめて、関係者専用の web ページを作成して共有した。

【成果】

成果物として、本研修により 20 の学習プログラム（企画書）ができた。本研修では、3 日間の集合研修と、個別相談会を行ったが、特に個別相談会は充実した成果物の作成、一人一人のスキルアップに大きく役立っていた。

本研修の委託は 2 年目であったが、今回はグループワークを多く取り入れたり、前年度の受講生による経験談や実践報告を入れたり、研修の中で交流が進むように対話の機会を設けるなどして、ネットワークの強化につながるように配慮した。また、研修の時間だけでは、つながりを深めきれないところもあるので、2 回目と 3 回目の集合研修のあとに、参加者が主体的に企画実施する有志による懇親会も設定した。

【今後に向けて】

本業務は、委託者と受託者の協働で行われているが、岡山市の担当課（ESD 推進課）や公民館の担当者などは人事異動のある人達なので、いつまで継続して担当していけるかどうかはわからない。それゆえに、異動リスクの小さい岡山在住の研修講師やスタッフを中心に、持続可能な研修・業務スタイルを確立させて、ESD の人材が多く育っていけるように、本研修を受託している ESD-J としても努めていきたいと考える。

Ⅲ. 会議等

<総会>

通常総会 2016 年 6 月 19 日（日） 日能研西日暮里校 6 F セミナースペース

<理事会>

第 1 回理事会 2016 年 6 月 19 日

第 2 回理事会 2016 年 7 月 1 日

第 3 回理事会 2016 年 7 月 31 日

第 4 回理事会 2016 年 12 月 18 日

Ⅳ. 会員、理事、事務局等

1) ESD-J 運営体制

<会員> ※()内は 2016 年 3 月末の数、昨年度比

団体正会員 65 (65) ±0 団体準会員 18 (18) ±0

個人正会員 97 (96) -1 個人準会員 125 (123) +2

賛助会員 10 (10) ±0 特別賛助会員 1 (1) 連携交流団体 5 (5) ±0

<役員等>

代表理事 阿部治、重政子

副代表理事 池田満之

【議案1】

理事 池田誠、大塚明、川村研治、小金澤孝昭、下村委津子、新海洋子、
鈴木克徳、三隅佳子
監事 浅見哲、吉岡睦子
顧問 池田香代子、岡島成行、廣野良吉

*役割

組織運営理事 阿部治、重政子、池田満之、鈴木克徳、川村研治
総務・労務・経理担当理事 重政子、池田満之、大塚明
センター事業担当理事 阿部治（センター長）、
重政子（人事労務・経理総括）、
鈴木克徳（副センター長）
ステークホルダー間の連携担当理事
学校との連携担当 大塚明
国際協力、開発分野との連携担当 池田誠
地域担当理事
【北海道・東北】 小金澤孝昭 【関東】 川村研治 【北陸・東海】 新海洋子
【近畿】 下村委津子 【中国・四国】 池田満之 【九州・沖縄】 三隅佳子

<事務局>

事務局長 伊藤通子（短時間正職員、週3日、ESD-J事務局勤務）
経理担当 後藤尚味（業務委託職員、週2日、ESD-J事務局勤務）
庶務担当 山本香織（パートタイム職員、週2日、ESD-J事務局勤務）2月～
ESD活動支援センター担当
次長（4月～1月） 村上千里（短時間正職員、17-20日/月、ESD活動支援センター勤務）
シニアアドバイザー（2月～） 同上
WEB担当 渡辺五月（短時間正職員、222日/年勤務、ESD活動支援センター勤務）
総務担当 山崎知子（正職員、ESD活動支援センター勤務）2月～
事務補佐 林歩未（パートタイム職員、5時間週5日、ESD活動支援センター勤務）